

# 1. 三股町の中世城館

	城名	別称	所在地	築城年代	築城者	初出史料
1	梶山城跡	雄鷹城・小鷹城	大字長田 ・梶山地区 ・梶山小学校北の杉山	南北朝時代 ・伝承：正平7年 (1352)	樺山氏？ ・伝承：樺山資久	『日向記』 永正元年 (1504)
2	勝岡城跡	豊鷹丸城	大字蓼池 ・勝岡地区 ・勝岡納骨堂東の杉山	南北朝時代	樺山氏？	『日向記』 永正17年 (1520)
3	樺山城跡		大字樺山 ・現在上米公園	南北朝時代	樺山氏？ ・伝承：樺山資久	今川満範書状 永和3年 (1377)
4	北殿城跡		大字長田 ・梶山橋の東南 200メートル	不明	不明	『庄内地理志』 巻99

この一覧表は、『都城市史 通史編 中世・近世』（平成17年6月30日、都城市発行）の575～577ページの「中表V-6 都城市・北諸県郡内の主な中世城館一覧」を基に作成しました。伝承については、『三股町史 改訂版』（昭和60年11月1日、三股町発行）から補足しました。

梶山城・勝岡城の初出史料にある『日向記』は、平成11年3月31日に宮崎県より『宮崎県史 叢書 日向記』として発行されています。『日向記』を見ますと、梶山城のことは「21 屋形炎上梶山知行事」（87～88ページ）にあり、勝岡城のことは「23 犬追物数ヶ度興行事」（91～99ページ）の後半（98ページ）に記載があります。『日向記』とは、中世から近世にかけて島津氏のライバルであった伊東氏の家譜であり、中世の日向国の歴史を研究する上で欠かせない史料です。

樺山城跡の初出史料「今川満範書状」は『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 家わけ』第1巻の「禰寝氏正統世録系譜」に収載されており、書状は今川満範から禰寝氏に宛てて、樺山城攻略に協力してほしいという主旨を伝えるものです。今川満範は了俊の子息とされる人物で、島津氏攻略のために永和2年（1376）8月に高城に着陣します。今川軍（北朝）の動きに対して、島津側（南朝）は樺山資久を小山城（高城町桜木）に出陣させますが、結果的には資久は樺山城に撤退します。その撤退先である樺山城を攻めるために禰寝氏に協力依頼をしているのが、その書状です。

ただ、地理的に小山城に近いのは、松尾城（山之口町花木、現あじさい公園）→勝岡城→梶山城でしょう。さらに、それらの城は、樺山城よりも堅牢です。資久はなぜ樺山城に撤退したのでしょうか？この時、梶山城はまだ築かれていなかったのでしょうか？梶山城という名称は、後世の編纂物や軍記物には数多く出てきますが、当時の史料では確認できていません。仮に、今川方にそれらの城を押さえられていたなら、樺山城への撤退はほぼ不可能です。『三股町史 改訂版』の伝承どおり1352年に梶山城が築かれていたとするならば、ここから先は推定になってしまいますが、この当時は梶山城も資久が築いた城ということで「樺山城」（樺山ノ城）と呼ばれていた可能性はないのでしょうか？現在の樺山城（上米公園）を見る限り援軍を要請しなければ攻略できないとは思えません。もちろん、現在の地形を600年前の地形に当てはまることはとても危険ですが…

残念ながら、この後の樺山資久の足取りは把握できなくなります。今後、樺山氏で登場するのは2代目音久であり、音久は実兄の北郷氏2代目当主の義久とともに都城に籠城し、今川軍との対決姿勢を強めていきます。

## 2. 都城十二外城（庄内十二外城）

都城十二外城とは、慶長4年（1599）に起こった庄内の乱の時、伊集院忠真が本城とした都城とその外城（支城）のことを言います。ちなみに、都城を中心として、その外城が「12」あった訳ですから、都城を入れると城の数は「13」になります。現在見られる山城は、庄内の乱の時に伊集院氏により整備された姿であると言われてています。

ただ、十二外城の嚆矢は、北郷家中興の祖である八代目当主忠相（1487～1555）に求められるでしょう。忠相は、伊東氏の「庄内八城」、北原氏の志和地城・山田城を手中にし、北郷家の隆盛を築きます。この時から、都城十二外城は整備されていくのです。

伊東氏の「庄内八城」とは、野々三谷城・高城・下之城・小山城・山之口城・三俣城（松尾城）・梶山城・勝岡城を指します。伊東氏がその最盛期に誇った「伊東四十八城」とは別です。

### ●都城十二外城一覧

※『地理志』＝『庄内地理志』、『市史』＝『都城市史 史料編 近世1～4』

	城名	別称	庄内の乱時の城将	所在地
1	みやこのじょう 都之城	つるまるじょう 鶴丸城	いじゅういんただぎね 伊集院忠真	都城市都島町
2	しわちじょう 志和池城	つるまるじょう 鶴丸城	いじゅういんただぎね 伊集院掃部助春成（忠真の叔父） 『地理志』巻86（『市史』4-P.16）	都城市上水流町
3	ののみににじょう 野々三谷城	小松ヶ尾鈴野城 水流尾城	古垣四郎右衛門忠與 『地理志』巻50（『市史』2-P.1017）	都城市野々美谷町
			有屋田大炊左衛門 『地理志』巻90（『市史』4-P.173）	
4	やすながじょう 安永城	かくよくじょう 鶴翼城	伊集院如松（本丸）、伊集院五兵衛（二ノ丸）、白石永仙（金石城） 『地理志』巻74（『市史』3-P.875）	都城市庄内町
			中山平太夫 『地理志』巻90（『市史』4-P.153）	
5	うめきたじょう 梅北城		日置善左衛門尉、日置覚内、 渋谷仲左衛門、築瀬 『地理志』巻93（『市史』4-P.229）	都城市梅北町
6	やまだじょう 山田城	たつめぐりじょう 龍廻城	長崎治部少輔、長崎休兵衛尉、 中村与左衛門 『地理志』巻84（『市史』3-P.1266）	都城市山田町山田 （山田総合支所付近）
		あさぎりじょう 朝霧城		
7	たかじょう 高城	がっさんひわじょう 月山日和城	比志嶋彦太郎 『地理志』巻90（『市史』4-P.172）	都城市高城町大字大井手 （都城市高城郷土資料館）
			比志島式部少輔義智、比志島彦太郎、 比志島久次郎、小牟田清五左衛門尉 『庄内軍記』（都城市立図書館発行本以下同）	
8	やまのくちじょう 山之口城	きかくさんせきじょう 龜鶴三石城	倉野七兵衛、 樗木主水佐、樗木監物（主水佐の嫡子） 『地理志』巻12（『市史』1-P.568）	都城市山之口町大字山之口
9	かつおかじょう 勝岡城	とよたかまるじょう 豊鷹丸城	伊集院如辰、朝倉十助、中俣玄蕃 『庄内軍記』・『三国名勝図会』巻57	三股町大字蓼池
10	かじやまじょう 梶山城	おたかじょう 雄鷹城	野辺彦市、野辺金左衛門、 谷口丹波、谷口伊予 『地理志』巻99（『市史』4-P.586）	三股町大字長田
11	すえよしじょう 末吉城	きかくじょう 龜鶴城	伊集院小伝次（忠真の弟）、伊集院兵部 少輔忠能、川崎源太、相良八郎左衛門尉 『庄内軍記』	曾於市末吉町諏訪方
12	たからべじょう 財部城	りゅうこじょう 龍虎城	伊集院甚吉、猿渡肥前守 『庄内軍記』	曾於市財部町南俣
13	つねよしじょう 恒吉城	にちりんじょう 日輪城	伊集院宗左衛門尉、滝岡平三郎 『庄内軍記』・『三国名勝図会』巻36	曾於市大隅町恒吉

